

CS1308/CS1316

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CS1308/CS1316 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2013 年 4 月 15 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプター、その他レールキット等のアクセサリ類は DOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

※本保証期間は 2007 年 9 月 1 日以降にご購入された製品に適用されます。それ以前に購入された製品については、保証期間は 1 年間です。

【補足】

- 本規定は ATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品の KVM スイッチ、キーボード・マウスコンバータ、キーボード・マウスエミュレータ、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対する保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術サポート部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC.....	4
RoHS.....	4
SJ/T 11364-2006	4
安全にお使い頂くために.....	5
一般的な注意事項	5
ラックマウントに関する注意事項	7
同梱品.....	8
本マニュアルについて.....	9
マニュアル表記について.....	10
第1章 はじめに.....	11
製品概要.....	11
特長.....	12
システム要件.....	13
コンソール.....	13
コンピューター	13
ケーブル	13
OS.....	15
製品各部名称	16
フロントパネル	16
リアパネル.....	18
第2章 ハードウェアセットアップ	19
概要.....	19
セットアップの前に.....	19
デバイスの卓上設置とラックマウント	20
卓上設置.....	20
ラックのフロント側へのマウント.....	21
ラックのリア側へのマウント.....	23
デバイスの接地.....	25

単体構成.....	26
接続図(単体構成)	27
ケーブル接続図.....	28
コンソールケーブル接続図	28
KVM ケーブル接続図	29
2 段階構成のセットアップ	30
接続図(2 段階構成)	31
第 3 章 基本操作.....	32
ホットプラグ	32
KVM ポートのホットプラグ	32
コンソールポートのホットプラグ	32
ポート選択.....	33
手動によるポート選択	33
ポート ID の割り当て	33
電源 OFF および再起動.....	34
第 4 章 OSD 操作.....	35
OSD 概要.....	35
OSD へのログイン.....	35
OSD ホットキー	35
OSD メイン画面.....	36
OSD メイン画面の項目	37
OSD ナビゲーション.....	37
OSD 機能.....	38
F1:GOTO	38
F2: LIST.....	39
F3:SET	40
F4:ADM.....	43
F5:SKP	48
F6:BRC	49
F7:SCAN	50
F8:LOUT.....	51
第 5 章 キーボードによるポート操作.....	52
ホットキーによるポート操作.....	52
ホットキーモードの起動.....	53
[Num Lock]キーと[-]キーでホットキーモードを起動する場合	53
[Ctrl]キーと[F12]キーでホットキーモードを起動する場合	53

アクティブポートの選択.....	54
オートスキャンモード	55
オートスキャンモードの起動.....	55
スキップモード	56
コンピューターのキーボード/マウスのリセット	57
ホットキーによるビープ音の切替	57
クイックホットキーの切替.....	58
OSD ホットキーの切替	58
ポート OS の変更	59
デフォルト値のリストア.....	59
ホットキー一覧表.....	60
第 6 章 キーボードエミュレーション	62
Mac キーボード.....	62
Sun キーボード	63
第 7 章 ファームウェアアップグレードユーティリティ.....	65
はじめに.....	65
ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード	65
アップグレード作業の下準備.....	66
アップグレードの開始.....	67
アップグレード成功	70
アップグレード失敗.....	70
ファームウェアアップグレードリカバリー.....	71
付録.....	72
製品仕様.....	72
接続台数関連表	75
CS1308 と 8 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合	75
CS1308 と 16 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合	75
CS1316 と 8 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合	75
CS1316 と 16 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合	76
対応 KVM スイッチ	77
工場出荷時におけるデフォルト値のリストア	78
OSD の工場出荷時における初期設定一覧	79
SPHD コネクタについて	79

FCC

本製品はFCC Class A装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のPart15に準拠したデジタル装置 Class Aの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意事項

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品は相間電圧 230V の配電装置向けに設計されています。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。

- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 「UPGRADE」と記載されている RJ-11 ケーブルを電話回線用モジュージャックに接続しないでください。

ラックマウントに関する注意事項

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

CS1308/CS1316 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CS1308/CS1316 ラックマウント型 KVM スイッチ ×1
- ◆ コンソールケーブル ×1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル ×1
- ◆ フットパッドセット (4 個入) ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CS1308/CS1316に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章 はじめに:** CS1308/CS1316 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。
- 第2章 セットアップ:** 基本的な単体構成のセットアップ方法から、17 台の KVM スイッチをカスケード接続する場合のセットアップ方法まで、機器の接続方法について説明します。
- 第3章 基本操作:** CS1308/CS1316 の機能概要および操作方法について説明しています。
- 第4章 OSD 操作:** CS1308/CS1316 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明しています。
- 第5章 キーボードによるポート操作:** CS1308/CS1316 のホットキー操作に関する機能概要、および操作手順について説明しています。
- 第6章 キーボードエミュレーション:** Mac キーボードのエミュレーション、また、Sun キーボードのエミュレーションについて対応表を用いて説明します。
- 第7章 ファームウェアアップグレードユーティリティ:** お使いの CS1308/CS1316 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

製品概要

CS1308/CS1316 は、1 コンソール(キーボード、マウス、モニター)から、最大 256 台のコンピューターを操作できる KVM スイッチです。本製品には、16 台の対応 KVM スイッチを追加接続することで、最大 256 台のコンピューターを 1 コンソールから操作可能にします。さらに、CS1308/CS1316 は 1U システムラックにマウント可能なコンパクトなデザインが特長です。

セットアップは、必要なケーブルを接続するだけですので、簡単で時間もかかりません。製品のコンソール、接続するコンピューターのインターフェースは、それぞれ USB と PS/2 の両方に対応しています。CS1308/CS1316 はキーボードの信号を直接受信しますので、ソフトウェアの設定を行う必要がありません。コンピューターの切替は、フロントパネルのプッシュボタンの操作、キーボードからのホットキー入力、また、メニュー形式の多言語対応 OSD からそれぞれ可能です。オートスキャン機能は製品に接続されたコンピューターを自動的にスキャンしますので、手動でポートを切り替えることなくコンピューターのモニタリングを続けることができます。最後にまとめると、CS1308/CS1316 を導入することが以下のメリットが得られます。

- a) 1 コンソールから複数のコンピューターの管理が可能になる
- b) コンピューター毎にキーボード、モニター、マウスを買いそろえる必要がなくなる
- c) 設置スペースや光熱費の削減が実現できる
- d) 無駄をなくすことによって、環境保護に貢献できる

特長

- ◆ 1 コンソールから最大 256 台のコンピューターの操作が可能
- ◆ 2 段階のカスケード接続に対応 - 最大 16 台の対応 KVM スイッチの接続が可能
- ◆ デュアルインターフェース - コンソールおよびコンピューターのインターフェースは PS/2 と USB の両方に対応
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows 2000/XP/Vista、Linux、Mac、Sun
- ◆ Windows、Mac、Sun の多機能 USB キーボードの使用が可能
- ◆ PS/2・USB インターフェース自動認識機能
- ◆ PS/2、USB キーボード・マウスエミュレーション機能 - 接続されているコンピューターは、スイッチがどのポートを選択していてもエラーを回避して起動
- ◆ 解像度 - 最大 2,048×1,536、DDC2B 準拠
- ◆ コンピューター切替方法 - フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、OSD メニュー
- ◆ 2 段階のユーザーアクセス制御 - 画面の参照や操作は権限のあるユーザーのみに限定。最大 4 名のユーザーおよび 1 名のアドミニストレーター個別作成が可能
- ◆ オートスキャン機能 - ユーザーが選択したコンピューターのみを自動的に監視
- ◆ ブロードキャストモード - 選択されたコンピューターすべてに対し、同じコマンドを一斉に送信
- ◆ ホットプラグ対応 - スイッチの電源を切ることなくコンピューターの追加や取り外しが可能
- ◆ ビープ音はホットキーや OSD で設定の変更が可能
- ◆ ファームウェアアップグレード可能
- ◆ ソフトウェア不要
- ◆ 19 インチシステムラック 1U サイズでのラックマウントが可能

システム要件

コンソール

KVM コンソールには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ お使いの機器構成において、最も高い解像度に設定されているコンピューターの画面が表示できる VGA、SVGA、またはマルチシンクモニター
- ◆ キーボードおよびマウス(USB または PS/2)

コンピューター

本製品に接続するコンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ D-sub15 ピンコネクタを搭載した VGA、SVGA、マルチシンクビデオカード
- ◆ PS/2 マウスポートおよび PS/2 キーボードポート。もしくは、USB ポート(1 箇所)

ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下のケーブルをご使用になることを推奨いたします。

製品画像	機能	型番(長さ)	
	PS/2 KVM ケーブル		
	スイッチ側	SPHD-15 オス ×1	2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m)
	コンピューター側	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス	2L-5203P(3m)
		マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニター用 D-sub15 ピン オス	2L-5206P(6m) 2L-5210P(10m)
	PS/2 KVM ケーブル		
	スイッチ側	SPHD-15 オス ×1	2L-5702P(1.8m)
	コンピューター側	キーボード用ミニ DIN6 ピン オス マウス用ミニ DIN6 ピン オス モニター用 D-sub15 ピン オス	
	USB KVM ケーブル (Windows、Linux、新 Sun、Mac)		2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m)
	スイッチ側	SPHD-15 オス ×1	2L-5203U(3m)
	コンピューター側	USB タイプ A オス モニター用 D-sub15 ピン オス	2L-5205U(5m)

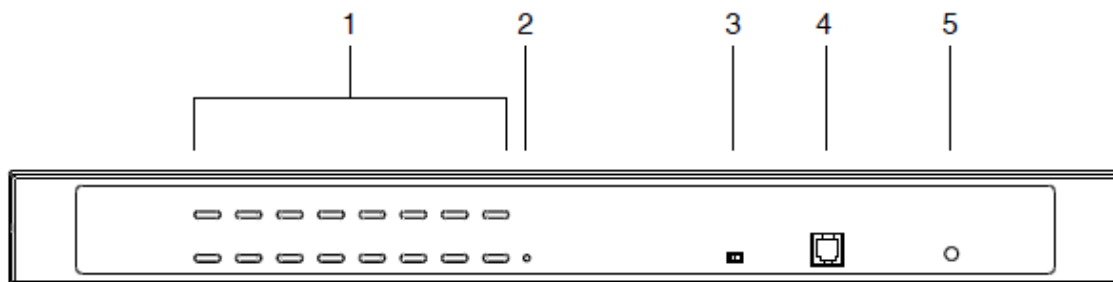
OS

本製品は、下記の OS を搭載したコンピューターを接続することが可能です。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	RedHat	7.1 以降
	SuSE	8.2 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
Unix	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降

製品各部名称

フロントパネル



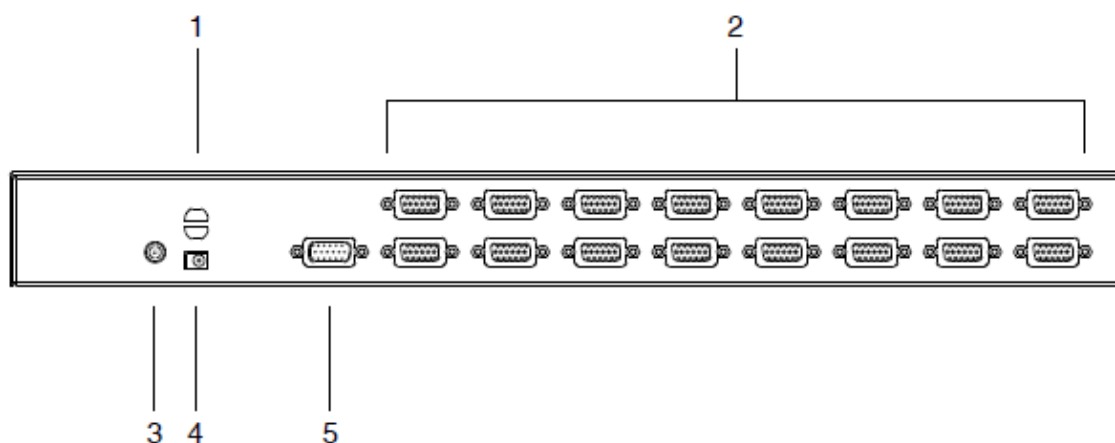
注意: 上図は CS1316 のフロントパネルです。CS1308 のフロントパネルはポート数が 8 ポートであることを除けば、CS1316 のフロントパネルと基本的に同じです。

No.	名称	説明
1	ポート選択ボタン	<p>各ポート選択ボタンには 2 種類の LED ランプが内蔵されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ オレンジの LED ランプは、そのポートにコンピューターが接続されていることを表しています。 ◆ グリーンの LED ランプは、そのポートが KVM スイッチによって選択されていることを表しています。 ◆ ポート 1 とポート 2 のボタンを同時に押すと、コンソールのキーボードおよびマウスをリセットします。 ◆ CS1308 をお使いの場合はポート 7 およびポート 8 を、また、CS1316 をお使いの場合はポート 15 およびポート 16 を同時に押すと、オートスキャンモードを開始します。(詳細は p.50「F7:SCAN」参照)

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
2	リセットボタン	<p>このボタンを押すとシステムリセットを実行します。システムがリセットされると、製品本体からビープ音が鳴り、リセット処理が完了するまで、ポート選択ボタンの LED ランプが連続して点滅します。リセットが完了すると、再びログインできるようになります。</p> <p>注意:このボタンはピンホール型ボタンになっているので、ペン等の細いもので押してください。</p>
3	ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	<p>通常の操作時、また、ファームウェアアップグレードの実行中には、このスイッチを「NORMAL」の位置にあわせてください。アップグレードが正常に終了しなかった場合、このスイッチを使ってリカバリーを行います。(詳細は p.71「ファームウェアアップグレードリカバリー」を参照)</p>
4	ファームウェアアップグレードポート	<p>ファームウェアアップグレードケーブルをこのポートと管理者のコンピューターを接続し、製品をファームウェアアップグレードモードにすると、ファームウェアのデータを製品に転送します。</p>
5	電源 LED ランプ	<p>ユニットに電源が供給されている場合、この LED ランプが点灯します。</p>

リアパネル



No.	名称	説明
1	ケーブルタイ スロット	ケーブルタイを使用してケーブルを束ねて整理したい場合は、このスロットでユニット本体に固定することができます。
2	KVM ポート	コンピューターとつながっているケーブルを接続するポートです。 注意: これらの 15 ピンコネクタは、本製品に対応した KVM ケーブルのみ接続することが可能です。(p.13「ケーブル」参照) 誤って D-sub15 ピンのケーブル等を接続しないよう、ご注意ください。
3	接地線端子	接地線をこの端子に接続し、製品の接地を行います。
4	電源ジャック	電源アダプターのケーブルを接続するジャックです。
5	コンソールポート	コンソールとして使用するモニター、キーボード、マウスを接続するコンソールケーブルを接続するポートです。

注意: 上図は CS1316 のリアパネルです。CS1308 のリアパネルはポート数が 8 ポートであることを除けば、CS1316 のリアパネルと基本的に同じです。

第2章

ハードウェアセットアップ

概要

CS1308/CS1316 は、USB、PS/2 の 2 つのインターフェースに対応した KVM スイッチです。製品とコンピューターの接続には、専用の KVM ケーブルを使用します。この KVM ケーブルは、製品に接続するコンピューターごとにご用意いただく必要があります。対応ケーブルに関する詳細は p.13 に掲載されています。お使いの環境に適したケーブルをお求めの際には販売店までお問い合わせください。

セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.5 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピューターの電源ケーブルも抜いてください。

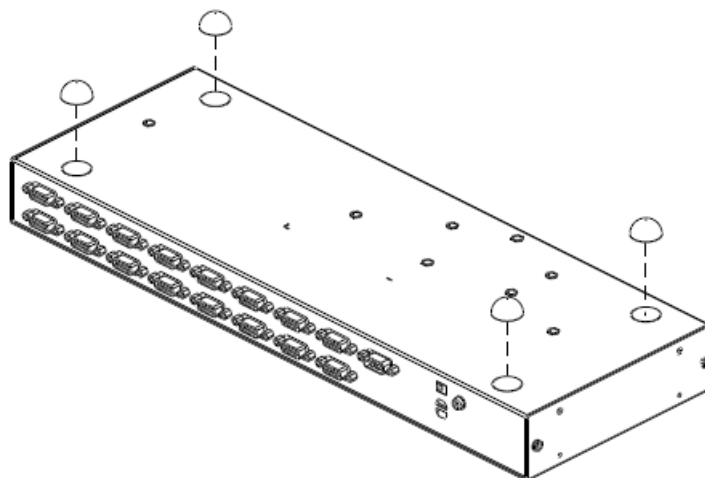
デバイスの卓上設置とラックマウント

CS1308/CS1316 は、水平な場所に置いて使用したり、システムラックにマウントして使用したりすることもできます。以下のセクションでは、本製品の卓上設置とラックマウントの方法について説明します。

-
- 注意:**
1. 機器への通気を確保するために、製品の両側面は 5.1cm 以上、また、ケーブルの配線スペースを考慮して背面は 12.7cm 以上の空間をもうけるようにしてください。
 2. 本製品にはラックマウント用のネジやケージナットは同梱されておりません。お手数ですが、これらのネジやケージナットは別途ご用意ください。
 3. 以下のセクションでは、設置例として CS1316 の図を使用しておりますが、CS1308 のセットアップ方法も基本的には CS1316 と同様です。CS1308 をお使いの方は適宜ご自身の環境に置き換えて読み進めてください。
-

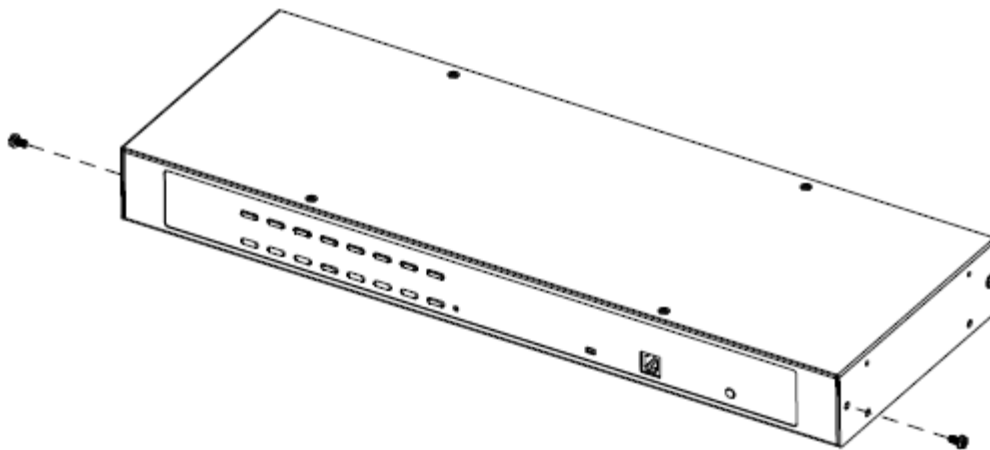
卓上設置

CS1308/CS1316 は製品本体と接続されるケーブルの重量に耐えられ、安定した水平な場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。セットアップを開始する前に、製品の表面に汚れや傷がついておらず、排気口をさえぎるものや KVM スイッチの操作に支障をきたすものがないことを確認してください。CS1308/CS1316 本体を水平な場所に置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下記の図のように製品底面の四隅に貼り付けてください。

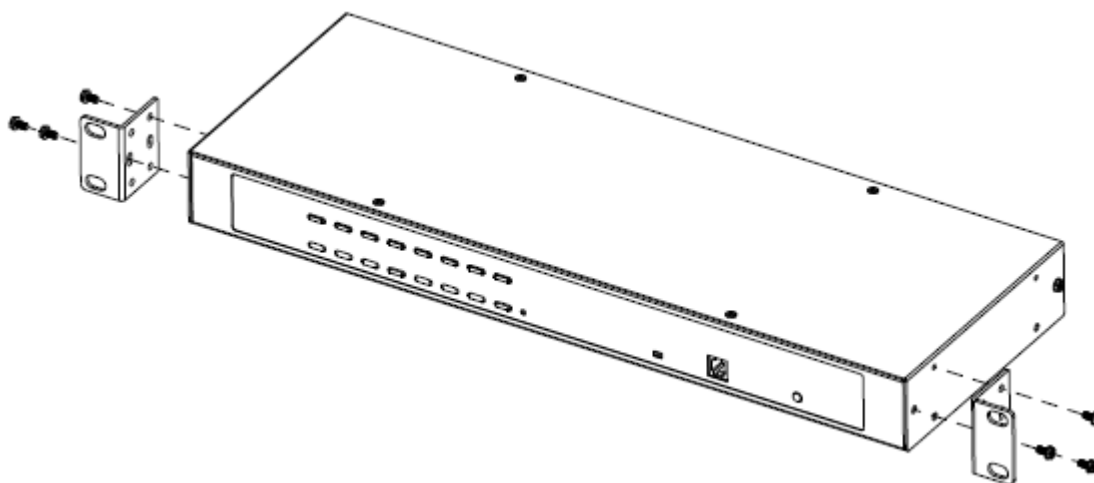


ラックのフロント側へのマウント

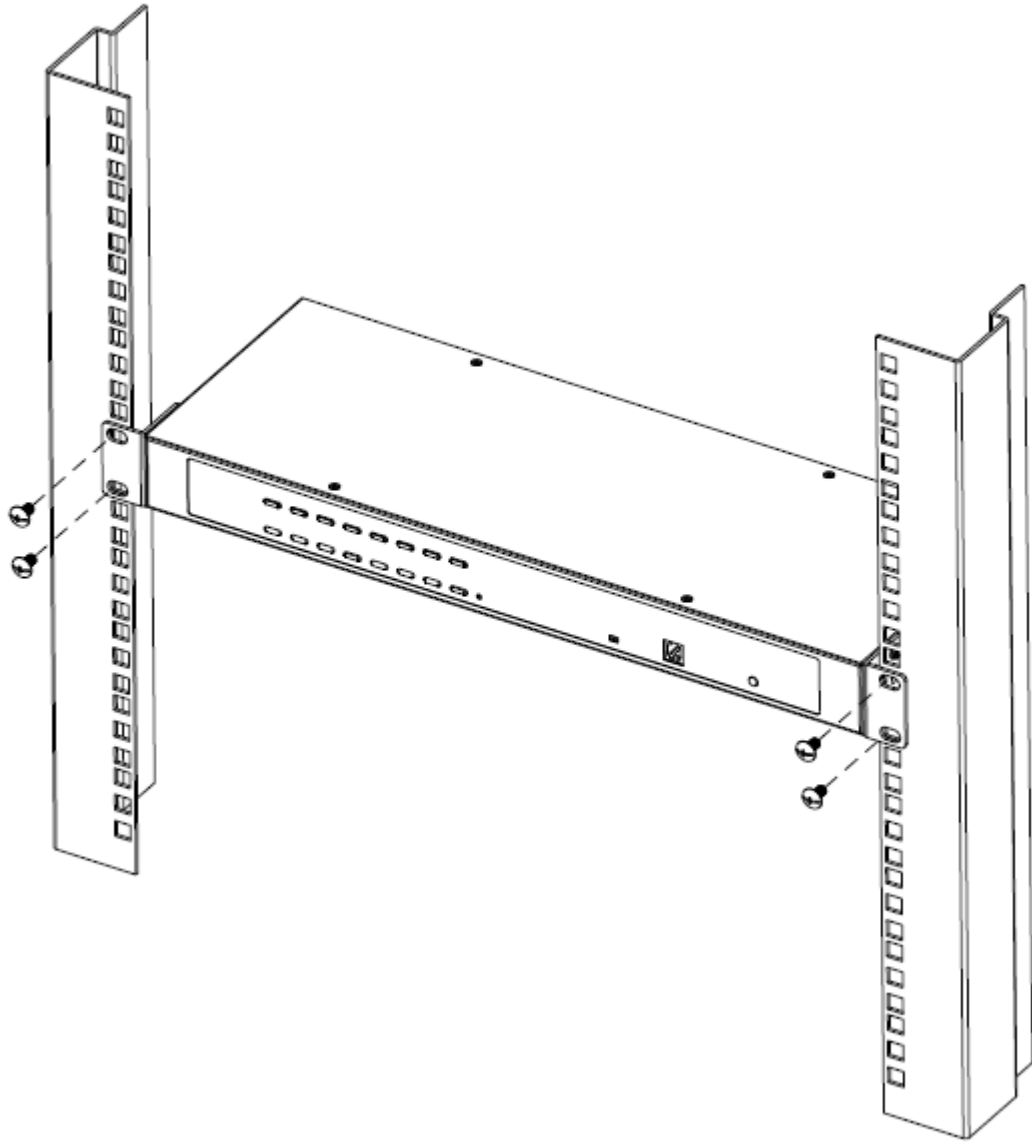
1. 下記の図のように、側面のフロント側についているネジ(左右各 1箇所)をはずしてください。



2. 製品に同梱されているネジを使って、マウント用の金具を下記の図のように製品フロント側に取り付けてください。

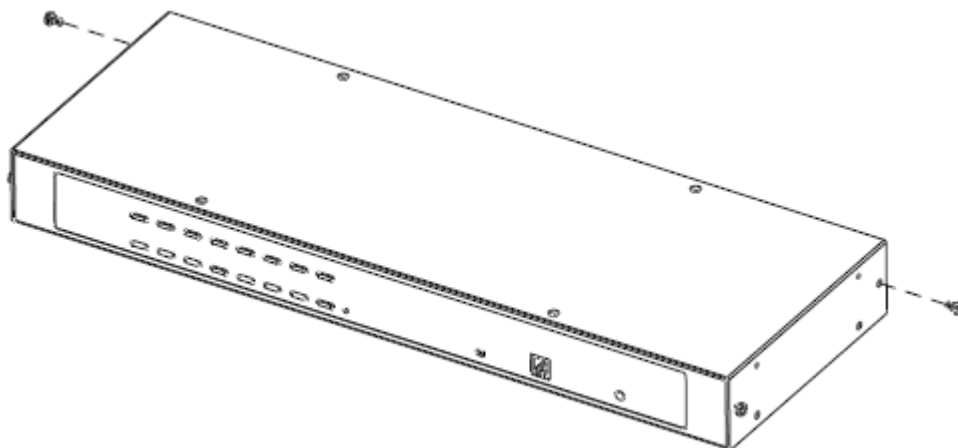


3. 金具を取り付けた製品を、ラックのフロント側の適切な位置に固定し、ネジ止めしてください。

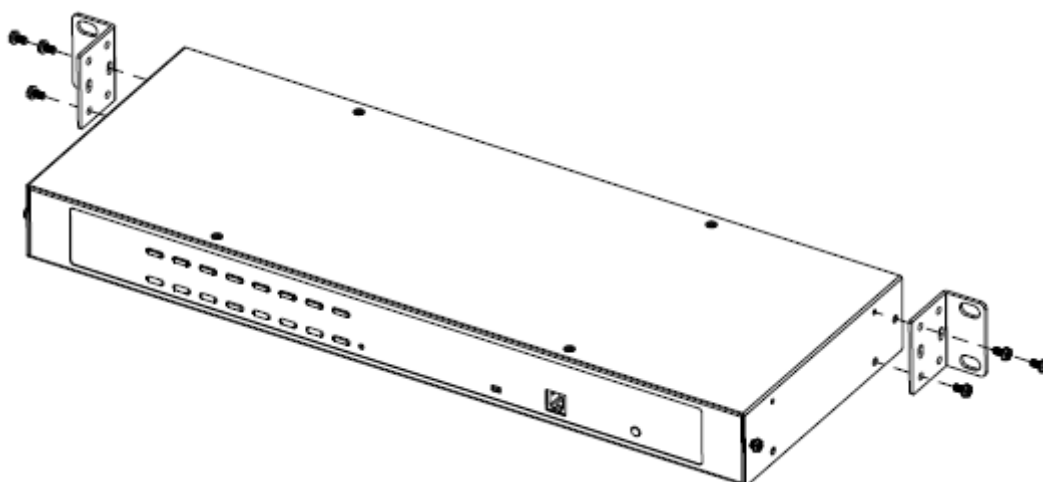


ラックのリア側へのマウント

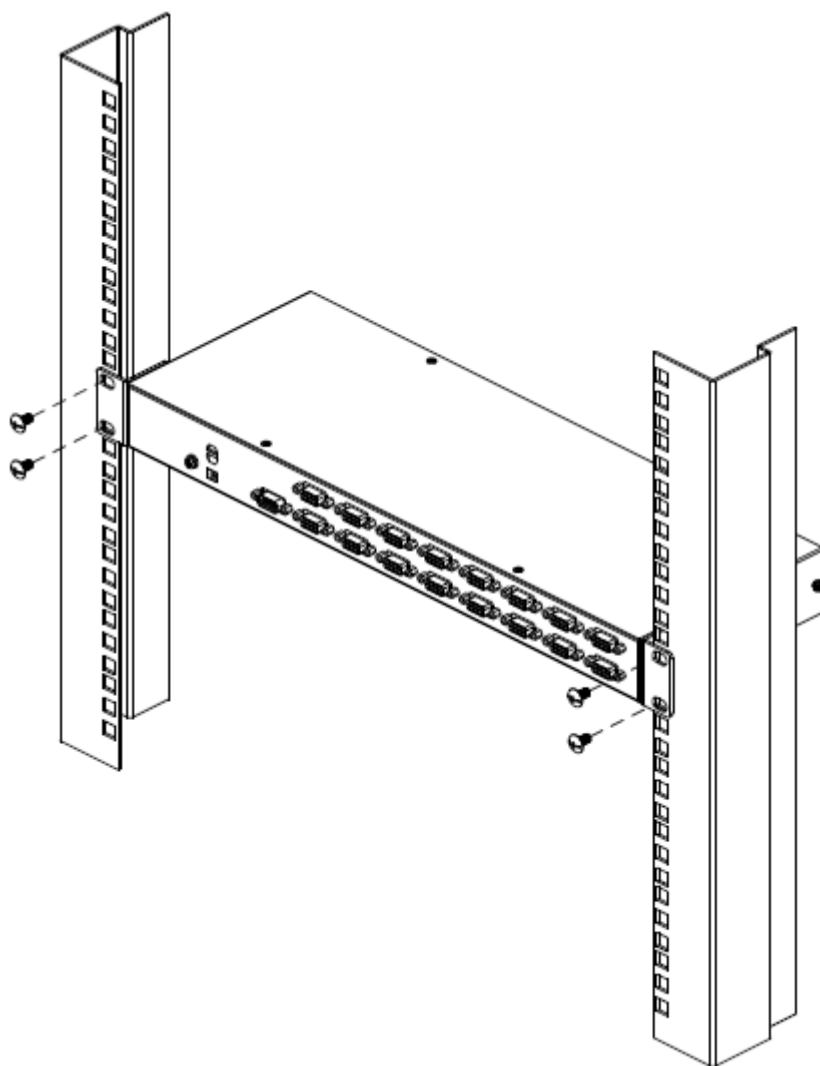
1. 下記の図のように、側面のリア側についているネジ(左右各 1箇所)をはずしてください。



2. 製品に同梱されているネジを使って、マウント用金具を下記の図のように製品リア側に取り付けてください。



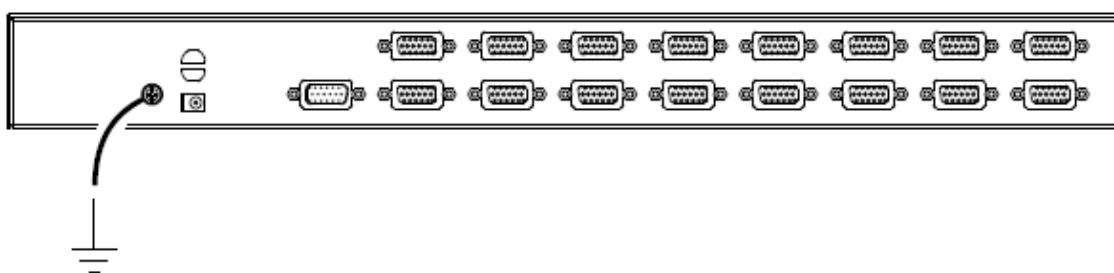
3. 金具を取り付けた製品を、ラックのリア側の適切な位置に固定し、ネジ止めしてください。



デバイスの接地

お使いの機器への損傷を防ぐためには、使用するすべてのデバイスを適切に接地する必要があります。

接地線の一端を接地ターミナルに、もう一端を適切な接地端子にそれぞれ接続して製品本体を接地してください。

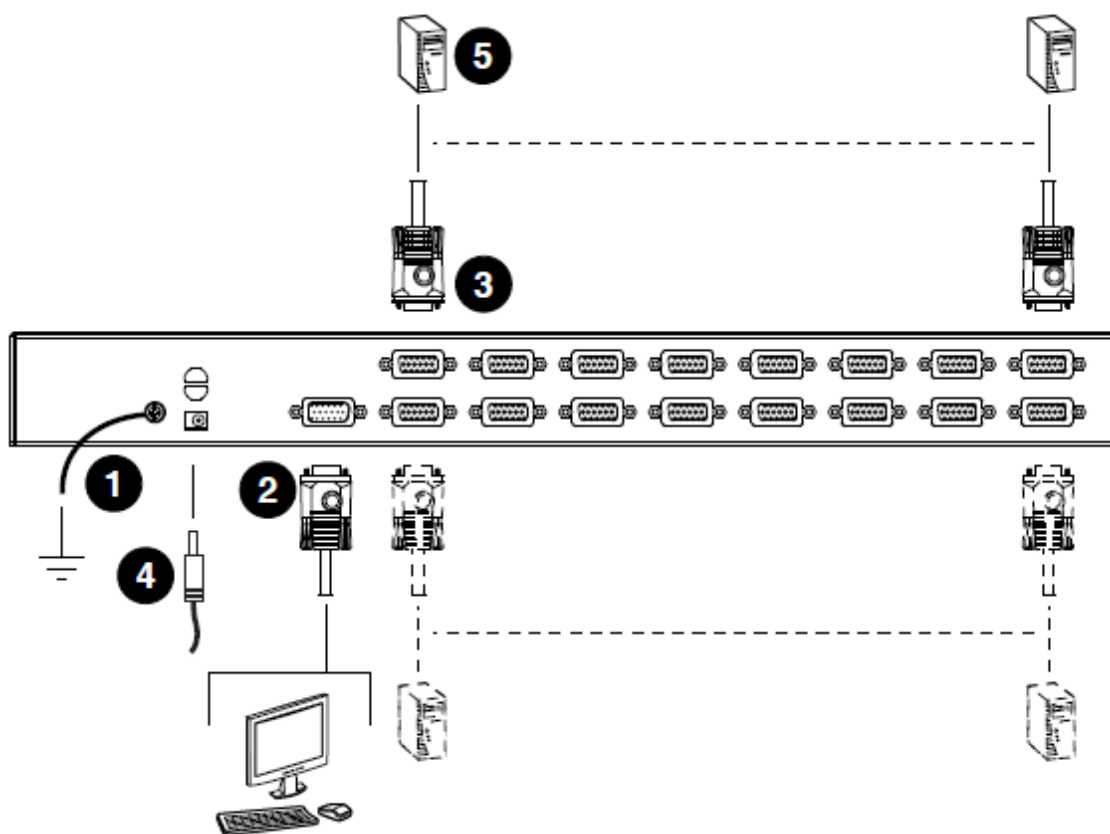


単体構成

製品を1台で使用する場合は別の機器とカスケード接続する必要はありません。次のページ以降の接続図(図中の番号は手順の番号に対応)を参考にし、セットアップを以下の手順で行ってください。

1. 製品本体を接地し、製品に接続するすべてのコンピューターに電源が入っていないことを確認してください。
2. 製品に同梱されているコンソールケーブルで、キーボード、マウス、モニターを製品のコンソールポートに接続してください。接続方法については p.28 の「ケーブル接続図」をご参照ください。
3. KVM ケーブル*(p.13 参照)を使って、製品リアパネルの KVM ポートと、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。接続方法については p.29 の「ケーブル接続図」をご参照ください。
4. 製品の電源ジャックに電源アダプターのケーブルを接続し、電源アダプターを電源に接続してください。
5. 製品に接続されているコンピューターに電源を入れてください。

接続図(単体構成)

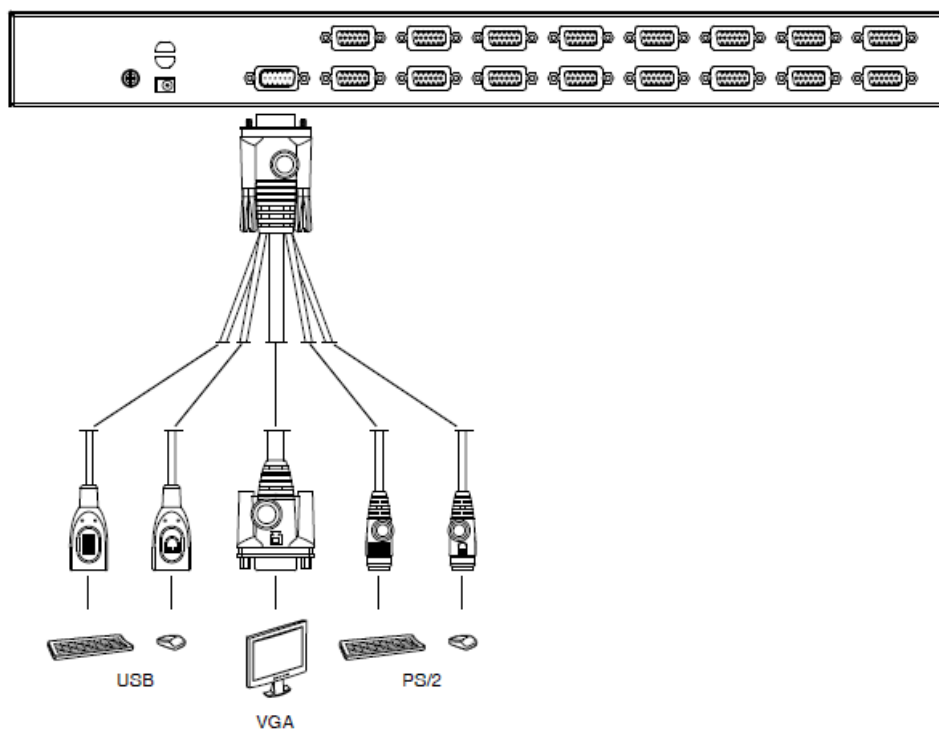


注意: 図内における番号は、上記のセットアップ手順の番号に対応しています。

* 詳細は販売店にお問い合わせください。

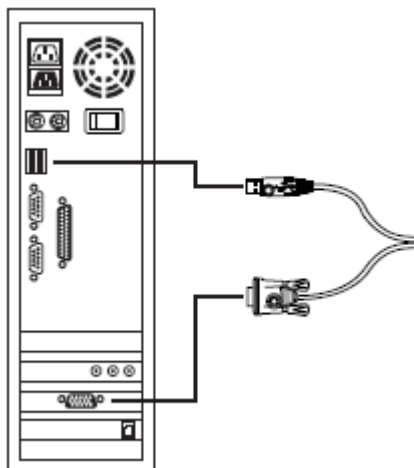
ケーブル接続図

コンソールケーブル接続図

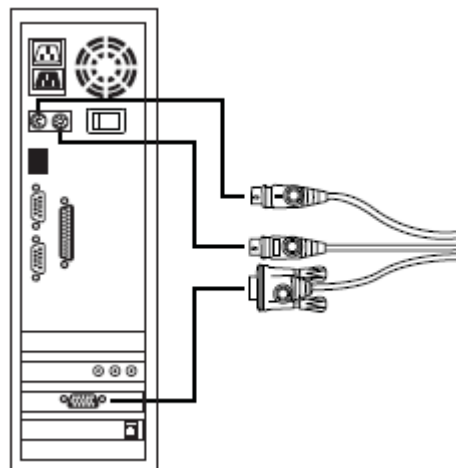


KVM ケーブル接続図

USB対応KVMケーブル



PS/2 対応KVMケーブル



2 段階構成のセットアップ

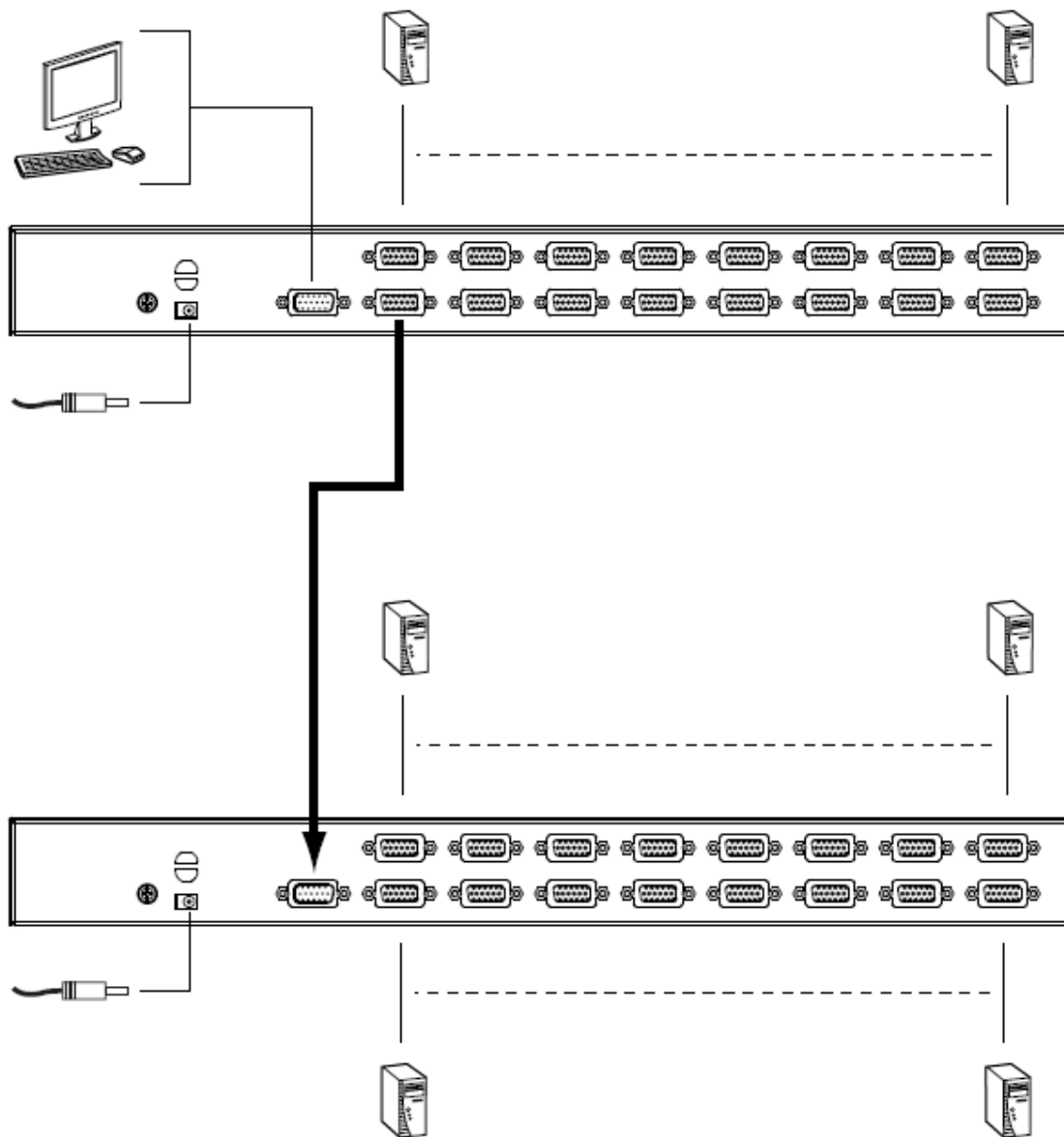
操作したいコンピューターの台数が CS1308/CS1316 のポート数を超える場合でも、最大で 16 台の KVM スイッチを CS1308/CS1316 にカスケード接続することで対応が可能です。この場合、最大で 256 台のコンピューターを 1 組のコンソールから操作することができます。

接続するコンピューターの台数と、その際に必要となる KVM スイッチの台数の関連表は p.75 をご参照ください。

製品のカスケード接続を行う場合は、以下の手順で作業を行ってください。

1. マスターステーションとして使用する CS1308/CS1316 を接地し、製品に接続するすべてのコンピューターに電源が入っていないことを確認してください。
 2. 製品に同梱されているコンソールケーブルで、キーボード、マウス、モニターを製品のコンソールポートに接続してください。接続方法については p.28 の「ケーブル接続図」をご参照ください。
 3. カスケード接続に使用するケーブル*を使って、マスターステーションとして使用する CS1308/CS1316 の KVM ポートと、スレーブステーションとして使用する CS1308/CS1316 のコンソールポートを接続してください。
 4. KVM ケーブル(p.13 参照)を使って、製品リアパネルの KVM ポートと、コンピューターのキーボード、モニター、マウスの各ポートを接続してください。
 5. 他のスイッチもカスケード接続する場合は、上記 1~4 の手順を繰り返してください。
 6. 製品にはスレーブステーションから先に電源を入れ、全スレーブステーションに電源が入ったことを確認してから、マスターステーションに電源を入れてください。全ステーションに電源が入ったら、製品に接続されているコンピューターに電源を入れることができます。
- * カスケード接続には対応ケーブルのうち USB タイプのものをお使いください。詳細は販売店にお問い合わせください。

接続図(2段階構成)



第3章

基本操作

ホットプラグ

CS1308/CS1316 はホットプラグ対応製品です。ケーブルのつなぎかえだけで、CS1308/CS1316 をシャットダウンすることなくキーボードやマウス等のつけはずしをすることが可能ですが、ホットプラグ機能が正しく動作するように下記の手順に従ってお使いください。

KVM ポートのホットプラグ

KVM ポートを変更した後、OSD メニューに新しいポートの情報設定を反映させるためには、手動で OSD を再設定する必要があります。詳細に関しては、p.40 の「F3:SET」および p.43 の「F4:ADM」の項にあるポート設定の内容をご参照ください。

注意: お使いのコンピューターの OS がホットプラグに対応していない場合、CS1308/CS1316 のホットプラグ機能が正しく動作しない場合がございます。

コンソールポートのホットプラグ

CS1308/CS1316 に接続されているキーボード、モニター、マウスもホットプラグすることが可能です。マウスをホットプラグする際には以下の注意事項に従って作業してください。

- ◆ マウスのリセット等の理由で同一マウスを使用する場合に限り、製品に対してマウスケーブルの抜き差しが可能です。
- ◆ 異なるマウスを使用する場合は、ステーションおよび機器に接続されているコンピューターをすべてシャットダウンし、10 秒間程度お待ちください。その後は、p.30 のステップ 6 にある「起動手順」に従って CS1308/CS1316 を再起動してください。

注意: ホットプラグをした後、また、通常の操作をしている際に、製品がキーボードやマウスからの入力に反応しなくなった場合は、リセットスイッチを押してキーボードとマウスのリセットを行ってください。

ポート選択

CS1308/CS1316 に接続されているコンピューターへの接続には、手動、OSD、ホットキーの 3 つの操作方法をご用意しております。OSD の操作方法については第 4 章で、また、ホットキーの操作方法については第 5 章でそれぞれ詳しく説明します。

手動によるポート選択

製品フロントパネルにあるポート選択ボタンを使って手動でポートを切り替えてください。

ポート ID の割り当て

CS1308/CS1316 の KVM ポートにはそれぞれ固有のポート ID が割り振られます。OSD (p.35 参照) やホットキー (p.52 参照) でポート ID を指定することによって、目的のコンピューターをダイレクトに切り替えることができます。

- ◆ マスターステーションのポート ID は、コンピューターが接続している KVM ポートのポートナンバーを使用します。(CS1308 の場合:01~08、CS1316 の場合:01~16)
- ◆ スレーブステーションのポート ID は、4 桁の番号で表されます。
前の 2 桁はマスターステーション上の KVM ポートのポートナンバーを、後ろの 2 桁はスレーブステーション上の KVM ポートのポートナンバーをそれぞれ表します。例えば、「02-16」というポート ID は、スレーブステーションがマスターステーションの 2 番ポートに接続されており、コンピューターがそのスレーブステーションの 16 番ポートに接続されていることを表しています。

電源 OFF および再起動

CS1308/CS1316 の再起動が必要な場合は、再起動を行う前に以下の作業を必ず行ってください。

1. CS1308/CS1316 の電源を切ってください。
2. CS1308/CS1316 に接続されているすべてのコンピューターをシャットダウンしてください。
注意: キーボード起動機能を使用しているコンピューターがある場合は、シャットダウンした後で、そのコンピューターの電源コードを抜いておく必要があります。電源コードが接続されたままでは、コンピューターに電源が供給され続けてしまいます。
3. シャットダウンが終了したら 10 秒ほど待機し、CS1308/CS1316 に電源を入れてください。
4. すべてのステーションに電源が入ったのを確認したら、CS1308/CS1316 に接続されている各コンピューターの電源を入れてください。

注意: マスターステーションとなる CS1308/CS1316 から他の KVM スイッチをカスケード接続している場合は、それらの KVM スイッチおよび接続されているコンピューターの電源も切る必要があります。

第4章

OSD 操作

OSD 概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、マウスやキーボードの操作が可能なメニューで、このメニューを使うことで CS1308/CS1316 本体の諸設定および接続されたコンピューターの管理を行うことができます。これらの操作はすべて OSD メインメニューから実行します。

OSD へのログイン

OSD では、ログインユーザーのユーザー権限(アドミニストレーター/ユーザー)に応じたメニューが表示されます。OSD のメイン画面が表示される前に、ログイン画面が表示され、パスワードの入力を求められます。OSD への初回ログイン時、また、パスワードが設定されていない場合は、[Enter]キーを押してください。この場合、OSD にはアドミニストレーターの権限でログインしますので、パスワード認証を含むすべての機能にアクセスしたり、操作したりすることが可能です。パスワードが設定されている場合は、OSD にログインする際に CS1308/CS1316 で有効なユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。

OSD ホットキー

選択したポートを表示している際に OSD メニューを起動したい場合は、[Scroll Lock]キーを 2 回押すことで OSD メニューを呼び出すことができます。

注意: OSD 表示のホットキーはデフォルトの[Scroll Lock]キーから[Ctrl]キーに変更できません(詳細は p.40「OSD HOTKEY」参照)。[Ctrl]キーの 2 度押しの際は、2 回とも同一[Ctrl]キーを使用するようにしてください(左側を 2 回、もしくは右側を 2 回)。


OSD メイン画面

OSD メニューを起動すると、以下のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. 上図は、アドミニストレーターとして OSD メニューにログインした場合の例です。F4 および F6 の各メニューはアドミニストレーターに限定された機能ですので、一般ユーザーとしてログインした場合は、これらのメニューが表示されません。
 2. OSD メニューにアクセスすると、前回アクセスしたメニューが選択された状態で表示されます。
 3. ポート一覧には、現在ログインしているユーザーがアクセスできるポートだけが表示されます。(詳細は p.44「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)
 4. ポート一覧が折りたたまれている場合は、操作対象となるポート ID をクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて右カーソルキーを押してツリーを展開させてください。ポート一覧を折りたたむ場合も同様にポート ID をクリックするか、左カーソルキーを押してツリーを操作します。
-

OSD メイン画面の項目

項目	説明
PN	製品上の全 KVM ポートのポート ID が表示されます。ハイライトバーを移動し[Enter]キーを押すと、画面がそのポートに接続されたコンピューターに切り替わります。
QV	クイックビューポート (p.46「SET QUICK VIEW PORTS」参照)として選択されているコンピューターには、この列に矢印が表示されます。
	ポートに接続されたコンピューターに電源が入っている場合、この列に太陽マークが表示されます。
Name	ポートに名前がつけられている場合はこの列に表示されます。(詳細は p.45「EDIT PORT NAMES」参照)

OSD ナビゲーション

- ◆ OSD 画面を閉じる場合は、OSD 画面の右上に位置する×印をクリックするか、[Esc]キーを押してください。
- ◆ ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する「F8」をクリックするか、キーボードで[F8]キーを押してください。
- ◆ リスト表示を 1 行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下のカーソルキーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ リスト表示を 1 ページずつ上下へ移動する場合は、画面の上下の矢印(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ◆ ポートを切り替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- ◆ これらの実行後は、自動的にメニューは 1 段階上の状態に戻ります。

OSD 機能

KVM スイッチの諸設定および接続されたコンピューターの管理を行う OSD 機能について説明します。OSD の各機能によって、任意のポートへの直接切替、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSD の設定等ができます。

OSD の各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

1. メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、その機能に対応したファンクションキーを押してください。
2. サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューにハイライトバーを移動させ、**[Enter]**キーを押してください。
3. **[Esc]**キーを押すと、1 段階上のメニューに戻ります。

F1:GOTO

画面の **F1** をクリックするか、**[F1]**キーを押すと、GOTO メニューを起動します。この GOTO 機能を利用すると、ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、直接ポートを切り替えることが可能です。

- ◆ ポートネームを使用する場合、**[1]**キーを押した後、ポートネームを入力して**[Enter]**キーを押してください。
- ◆ ポートIDを使用する場合、**[2]**キーを押した後、ポートIDを入力して**[Enter]**キーを押してください。

注意: この機能では、ポートネームの一部もしくはポート ID を入力することが可能です。このとき、現在のリスト表示の設定(詳細は p.39「F2:LIST」参照)にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの(p.44「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)がすべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、**[Esc]**キーを押してください。

F2: LIST

このメニューでは、OSD メイン画面で表示するポートの範囲を指定できます。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	内容
ALL	現在ログインしているユーザー自身がアクセスできるポートをすべてリストアップします。
QUICK VIEW	クイックビューポート(p.46 参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON(電源 ON)	接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源 ON)	クイックビューポート(p.46 参照)として選択され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートをリストアップします。

選択したいポートを OSD 画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して [Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

F3:SET

このメニューでは、アドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログインした際の環境設定を行います。それぞれのユーザーの各プロファイルは KVM スイッチ内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定を変更される場合は以下の手順で作業してください。

1. 「F3:SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ、**[Enter]**キーを押してください。
2. 次に表示されたサブメニューの変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させて**[Enter]**キーを押してください。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設定	機能
OSD HOTKEY (OSD ホットキー)	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のコンピューターの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー 2度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION (PORT ID 表示ポジション)	画面上のポートID表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上に表示されますが、任意の位置にポートIDを表示することもできます。 マウス、またはカーソルキー、[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を使ってポートIDの表示位置を決めた後、ダブルクリックするか [Enter] キーを押して位置を確定してください。設定が完了すると、「F3:SET」のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (PORT ID 表示時間)	ポート切替が行われた後、画面にポートIDを表示する時間を設定します。 3 SECONDS :3 秒間 ALWAYS OFF :ポートIDを常に非表示 デフォルトでは3秒間に設定されています。

(表は次ページに続きます)

設定	機能
PORT ID DISPLAY MODE (PORT ID 表示モード)	<p>ポート ID 表示方法を選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。</p> <p>PORT NUMBER + PORT NAME:ポートナンバーとポートネーム PORT NUMBER:ポート番号のみ PORT NAME:ポートネームのみ</p> <p>デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム (PORT NUMBER + PORT NAME) に設定されています。</p>
SCAN DURATION (スキャン間隔)	<p>オートスキャンモード (p.50 参照) で、各ポートに接続されたコンピューターの画面を表示する時間を設定します。1～255 秒までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。</p> <p>デフォルトでは 5 秒間に設定されています。0 秒で設定するとスキャン機能を無効にします。</p>
SCAN-SKIP MODE (スキャン/ スキップモード)	<p>スキップモード (p.48 参照) およびオートスキャンモード (p.50 参照) で、アクセスするコンピューターを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。</p> <p>ALL - アクセスできるポートすべて (p.44 参照) QUICK VIEW - アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート (p.46 参照) のみ POWERED ON (電源 ON) - アクセス可能かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW +電源 ON) - アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているコンピューターの電源がオンになっているポートのみ</p> <p>デフォルトでは ALL に設定されています。</p> <p>注意:クイックビューの設定はアドミニストレーターに限定されている機能ですので、これらの項目はアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます。(p.46 参照)</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面は ブランクになります。1～30 分の時間を入力してから、[Enter]キーを押し ます。0 分で設定するとこの機能を無効にします。 デフォルトでは 0(無効)に設定されています。
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーモード)	ホットキー操作がコンピューターで動作中のプログラムと競合がある場合 などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。
HOTKEY (ホットキー)	ホットキーモードを開始するショートカットキー (p.52 参照) を選択できま す。[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] のいずれかを選択してくださ い。 デフォルトでは [Num Lock] + [-] に設定されています。
OSD LANGUAGE (OSD 言語)	OSD メニューの表示言語を設定します。選択できる設定項目は以下のと おりです。 ENGLISH: 英語 DEUTSCH: ドイツ語 日本語 簡中: 中国語 (簡体字) 繁中: 中国語 (繁体字) デフォルトでは ENGLISH に設定されています。

F4:ADM

F4 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で「F4:ADM」をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]キーを押してください。

項目を選択すると、F4 機能のサブメニューが表示されます。操作したいメニューをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させた後、[Enter]キーを押してください。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET USER LOGIN (ユーザーログインの 設定)	<p>この機能でアドミニストレーターおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. アドミニストレーター1名およびユーザー4名のユーザーネームおよびパスワードの設定が可能です。2. ユーザーまたはアドミニストレーターのうち、1つを選択した後、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは半角英数字(A~Z, 0~9)、半角記号(* () + :- , ? . /)、半角スペースを使用し、1~16文字で入力してください。3. ユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定したら、[Enter]キーを押してください。4. 既に入力されたユーザーネームまたはパスワードを消去する場合は、[Backspace]キーを使用してください。入力が完了したら[Enter]キーを押してください。 <p>注意:ユーザーネームおよびパスワードは大文字と小文字を区別しません。ユーザーネームは OSD では大文字で表示されます。</p>

(表は次ページに続きます)

設定	機能
SET ACCESSIBLE PORTS (アクセスポートの 設定)	<p> アドミニストレーターはこの機能でポート別に各ユーザーのアクセス権限を定義することができます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、スペース キーを押して、以下の項目のうち、お使いの環境に適したものを選択してください。 </p> <p> F:フルアクセス V:モニターのみ (スペース):アクセス NG </p> <p> 全てのポートに対しこの作業を繰り返してください。設定が終わったら [Enter] キーを押してください。 </p> <p> デフォルトでは、全てのユーザーが全てのポートに対し F(フルアクセス) に設定されています。 </p> <p> 注意: </p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。 ◆ アドミニストレーターは常にすべてのポートに対してフルアクセスの権限を持っています。
SET LOGOUT TIMEOUT (タイムアウトの設定)	<p> ここで設定された時間、コンソールからの入力がない場合、そのユーザーはシステムによって自動的にログアウトさせられます。ログアウトした後でコンソールを使用する場合は、再度ログインしなければなりません。 </p> <p> この機能はオペレータがもうコンピューターにアクセスする必要がなくなったのにログアウトをするのを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピューターにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1～180 分までの数値を入力し、[Enter] キーを押してください。0 分で設定するとこの機能を使用不可にします。 </p> <p> デフォルトは 0(無効) に設定されています。 </p>

(表は次ページに続きます)

設定	機能
EDIT PORT NAMES (ポートネームの設定)	<p>製品に接続されているコンピューターの識別を容易にするために、各ポートには名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームの設定、編集、削除をそれぞれ行うことができます。</p> <p>ポートネームを編集するには以下の手順で作業してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 編集したいポートをクリックするか、上下のカーソルキー([↑][↓])を使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]キーを押します。 2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームは、半角英数字(a~z、0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)、および半角スペースを使用し最大12文字で入力してください。なお、大文字、小文字は区別されません。OSD ではポートネームはすべて大文字で表示されます。 3. ポートネームの編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更内容を適用してください。変更を途中で止める際には、[Esc]キーを押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES (RESTORE)	<p>この機能は、ポートネーム一覧、ユーザーネーム、パスワードを除いた、OSD メニューのすべての項目を工場出荷時のデフォルト値に戻します。(p.79 参照)</p>
CLEAR THE NAME LIST (ネームリストのクリア)	<p>ポートネームの一覧を消去します。</p>
ACTIVATE BEEPER (ビープ音の設定)	<p>ビープ音の設定を行います。Y(有効)または、N(無効)を選んでください。Y を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(p.50 参照)が有効になっている時、OSD メニューで無効な入力がされた時にそれぞれビープ音が鳴ります。</p> <p>デフォルトでは Y(有効)に設定されています。</p>

(表は次のページに続きます)

設定	機能
SET QUICK VIEW PORTS (QUICK VIEW PORT の設定)	<p>クイックビューポートとして表示するポートを選択します。この機能はアドミニストレーターのみが利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、上下のカーソルキー([↑][↓])でハイライトバーをそのポートに移動させて、スペースキーを押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 ◆ LIST メニュー (p.39「F2:LIST」参照) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ オートスキャン (p.41 参照) でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 <p>デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。</p>
SET OPERATING SYSTEM (OS の設定)	<p>CS1308/CS1316 に接続されているコンピューターの OS の種類を設定します。デフォルトでは WIN (PC 互換機) に設定されています。</p> <p>OS の設定は以下の手順で行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一覧から、OS を設定するポートを選択してください。 2. スペースキーを押すと、選択できる項目 (WIN、MAC、SUN、OTHER) が切り替わりますので、お使いのコンピューターに適したものを選択してください。 3. 選択し終わったら[Esc]キーを押して操作を完了してください。手順2で選択された内容がそのポートに反映されます。
FIRMWARE UPGRADE (ファームウェア アップグレード)	<p>CS1308/CS1316 のファームウェアをアップグレードする場合(p.65 参照)は、この項目であらかじめファームウェアアップグレードモードにしておいてください。</p> <p>このメニューを起動すると、現在お使いのファームウェアのバージョン情報が表示されます。ファームウェアアップグレードモードを有効にする場合は[Y]を、ファームウェアアップグレードモードを有効にせずメニューを終了する場合は[N]をそれぞれ押してください。</p>

(表は次ページに続きます)

F5:SKP

画面の **F5** の項目をクリックするか、**[F5]**キーを押すとスキップモードを起動します。この機能によって、現在表示しているポートから、前後の利用可能なコンピューターのポートに簡単にスキップすることができます。

- ◆ スキップモード切替が利用できるコンピューターの選択は、F3 SET の機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます。(p.41 参照)
- ◆ スキップモードでは以下のキーで操作を行います。
 - ← 現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。
 - 現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。

注意: スキップする際は、スキャン/スキップモード(p.41 参照)の選択できる前後のコンピューターにしかスキップできません。

- ◆ ポートがスキャン/スキップモードで選択されている場合、選択されたポートのポートIDの前に三角の印(▲▼)が表示されます。
- ◆ スキップモードが有効な場合、コンソールが正常に機能しませんので、コンソールから操作したい場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ◆ スキップモードを終了する際には、スペースキー、または**[Esc]**キーを押してください。

F6:BRC

ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。画面の **F6** の項目をクリックするか、**[F6]**キーを押すと、ブロードキャストモード(BRC)を起動します。この機能を使用すると、コンソールで入力したコマンドを、CS1308/CS1316 上の利用可能なポートに一斉送信することができます。これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のコンピューターで同じ操作を行う必要があるユーザーに特に便利な機能です。

ブロードキャストモードは「F2:LIST」の機能と組み合わせて機能します。LIST 機能(p.39 参照)を使用することでOSDメイン画面に表示するポートの範囲を設定することができます。コマンドのブロードキャストは、現在 OSD 上に表示されているポートを対象に行われます。

- ◆ BRC モードが有効な場合、現在選択中のポートIDの前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な場合、マウスが正常に機能しませんので、マウスをお使いになる場合は BRC モードを終了する必要があります。
- ◆ BRC モードを終了するには、OSD メニューを OSD 起動用ホットキーで起動し、**F6** のフィールドをクリックするか、**[F6]**キーを押してください。

F7:SCAN

画面の **F7** の項目をクリックするか、**[F7]**キーを押すと、オートスキャンモードを起動します。この機能を利用すると、手動でポート切替を行うことなく、稼働中のコンピューターを一定の間隔で自動的に切り替えて、監視することができます。

- ◆ オートスキャン時に表示するコンピューターは、スキャンモード設定の「F3:SET」(p.40 参照)のメニューで選択します。
- ◆ 各ポートを表示する時間間隔の設定は、「F3:SET」の「SCAN DURATION」(p.41 参照)で行います。任意の場所でスキャンを停止したい場合はスペースキーを押してください。
- ◆ KVM スイッチが、コンピューターが接続されていないポート、もしくは電源の入っていないコンピューターが接続されているポートを選択すると、モニターには何も表示されず、マウスまたはキーボードの入力に対しても何も反応しません。この場合、「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替えますので、しばらくお待ちください。
- ◆ オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポート ID の前に[S]マークが表示されています。
- ◆ オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力の必要がある場合は、スペースキーを押してオートスキャンモードを解除してください。
- ◆ オートスキャンの実行中に任意のポートで表示を一時停止したい場合は、**[P]**キーを押す、もしくは左クリックしてください。詳細については p.55 をご参照ください。
- ◆ オートスキャンモードを終了する場合は、スペースキーもしくは**[Esc]**キーを押してください。

F8:LOUT

画面の **F8** の項目をクリックするか、**[F8]**キーを押すと OSD メニューからログアウトし、コンソール画面はブランクになります。これは OSD メインメニューを表示している間に**[Esc]**キーを押し、OSD を閉じる操作とは異なります。**[Esc]**キーを押した場合は、ログアウトせず OSD メニューを閉じただけで、OSD ホットキーを押せば再度 OSD メニューにアクセスできるのに対し、この機能を使うと OSD からログアウトしますので、再度アクセスする場合は、ログインからやり直さなければなりません。

-
- 注意:**
1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示すると、OSD メインメニュー以外はブランク画面が表示されますので、操作を続けたい場合はユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
 2. ログアウト後に再び KVM スイッチへログインして OSD を表示し、メニューからポートを選択しない状態で**[Esc]**キーで OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には Null Port 無効ポートメッセージが表示されます。このとき OSD 起動ホットキーによって OSD 画面を表示することができます。
-

第5章

キーボードによるポート操作

ホットキーによるポート操作

ホットキーを使うと、特定のポートにキーボードから直接切り替えることができます。CS1308/CS1316 が提供しているホットキーの機能には以下のような特長があります。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードによる切替操作
- ◆ スキップモードによる切替操作
- ◆ コンピューターのキーボードおよびマウスのリセット

また、ホットキーモードでは、以下の設定を行うことも可能です。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ クイックホットキーの設定
- ◆ OSD ホットキーの設定
- ◆ ポート OS の設定
- ◆ OSD デフォルト値のリストア

ホットキーモードの起動

ホットキー操作を行うには、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。¹ ホットキーモードの起動用に2種類のホットキーを提供していますが、1度に使用できるのは1種類だけです。

[Num Lock]キーと[-]キーでホットキーモードを起動する場合

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キーを押して離してください。
3. [Num Lock]キーを離してください。

以降、このキー操作は [Num Lock] + [-] と表記します。

[Ctrl]キーと[F12]キーでホットキーモードを起動する場合

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。
2. [F12]キーを押して離してください。
3. [Ctrl]キーを離してください。

以降、このキー操作は [Ctrl] + [F12] と表記します。

ホットキーモードが有効になっている場合、CS1308/CS1316 には以下の動作が見られます。

- ◆ モニターに、青い背景に白い文字で「HOTKEY:」と書かれたコマンドプロンプトが表示されます。ホットキーを入力すると、このプロンプトにその内容が表示されます。
- ◆ 通常のキーボード、マウスの各入力は一時的にサスペンドされ、ホットキーとして割り当てられているキー入力のみが可能になります。

[Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

¹ OSD メニューの「HOTKEY COMMAND MODE」の項目が有効で、かつ、入力されたホットキーが正しいことを確認してください。(詳細は p.49 参照)

アクティブポートの選択

各ポートには固有のポート ID が割り当てられます。(p.33 参照)ホットキーでこのポート ID を指定することで、CS1308/CS1316 に接続されているコンピューターに直接アクセスすることができます。ホットキーを使ってポートを切り替える場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. ポート ID を入力してください。
入力したポート ID は画面上に表示されます。入力を誤った場合は[Backspace]キーを使って消してください。
3. **[Enter]**キーを押してください。
[Enter]キーを押すと、先ほど指定したポート ID のコンピューターが選択され、ホットキーモードが自動的に終了します。

注意: ホットキーモードで無効な値が入力されると、ポートは選択されません。ホットキーのコマンドラインは、有効な値が入力されるまで、また、ホットキーモードを終了するまで表示されたままになります。

オートスキャンモード

オートスキャンモードでは、「SCAN/SKIP MODE」でアクセスポートとして指定されたすべてのポートを自動で監視できるように、これらのポートを順番に一定の時間間隔で切り替えます。詳細については p.41 の「SCAN/SKIP MODE」をご参照ください。

オートスキャンモードの起動

オートスキャンを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. **[A]**キーを押してから**[Enter]**キーを押してください。この操作によってホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンモードを開始します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中に、**[P]**キーを押すかマウスの左クリックをすると、特定のコンピューターでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「**Auto Scan : Paused**」という文字が表示されます。

オートスキャンを一旦終了すると、スキャンを再開した際に最初のポートからスキャンを始めるのに対し、一時停止機能を利用すると、再開した際には前回一時停止したポートからスキャンを続行しますので、オートスキャンを停止した後でスキャンを再開する必要がある場合は、オートスキャンモードを終了するよりも、スキャンの一時停止機能を利用したほうが便利です。

オートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、マウスで左クリックをしてください。スキャンが停止していた位置から再開します。

- ◆ オートスキャンモードの実行中は、オートスキャンで有効なキー入力とマウス入力を除いた操作がサスペンドされます。通常のキー入力やマウス操作を行いたい場合は、オートスキャンを終了する必要があります。
3. オートスキャンモードを終了する場合は、**[Esc]**キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは終了します。

スキップモード

この機能を利用すると、コンピューターを手動で切り替えて監視することができます。この機能はオートスキャンモードとは異なり、スキャンインターバルがありませんので、選択したポートを時間の制限にしばられることなく、好きなだけポートを選択しておくことができます。スキップモードを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. ポート切替の操作に割り当てられたカーソルキーを押してください。
 - ◆ カーソルキーを押すと、ホットキーモードを自動的に終了し、その操作を行ったときに表示していたポートからスキップモードを開始します。各カーソルキーの機能は以下のとおりです。

←	現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。(アクセスポートに関する詳細は p.41「SCAN/SKIP MODE」を参照)
→	現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。

- ◆ スキップモードの実行中は、カーソルキーを押すだけでポートのスキップを行うことができますので、操作のたびに**[Num Lock] + [-]**等でホットキーモードを起動する必要はありません。
 - ◆ スキップモードの実行中は、スキップモードの機能として割り当てられているキー入力を除いたキーボードおよびマウスの操作がサスペンドされます。コンソールを通常使用したい場合はスキップモードを終了する必要があります。
3. スキップモードを終了する場合は、**[Esc]**キーまたはスペースキーを押してください。

コンピューターのキーボード/マウスのリセット

製品に接続されたコンピューターの操作中にキーボードまたはマウスが機能しなくなった場合は、キーボードとマウスのリセットを行うことができます。この機能を使うと、そのコンピューターで実際にキーボードとマウスを抜き差しした時と同じ状態になります。キーボードとマウスのリセットを行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. **[F5]**キーを押してください。

[F5]キーを押すと、自動的にホットキーモードを開始し、そのポートに接続されているコンピューターでキーボードとマウスが再び使用可能になります。上記の手順でリセットを行っても問題が解決しない場合は、コンソールキーボードとマウスのリセットを実行してください。方法の詳細は p.16 に記載されておりますので、そちらをご参照ください。

ホットキーによるビープ音の切替

ビープ音 (p.45 参照) はホットキーを使って有効または無効にすることが可能です。ビープ音の設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. **[B]**キーを押してください。

[B]キーを押すと、ビープ音が有効または無効に切り替わり、画面上に 1 秒間、「Beeper On」または「Beeper Off」の文字が表示された後、ホットキーモードを自動的に終了します。

クイックホットキーの切替

クイックホットキー (p.42「HOTKEY」参照) は、[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]に切り替えることができます。クイックホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [H]キーを押してください。

[H]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

OSD ホットキーの切替

OSD ホットキー (p.40「OSD HOTKEY」参照) は、[Scroll Lock]キー2 度押し、または[Ctrl]キー2 度押しに切り替えることができます。OSD ホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. [Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. [T]キーを押してください。

[T]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが 1 秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

ポート OS の変更

ポートに接続されているコンピューターの OS と一致するように CS1308/CS1316 側でポート OS を設定することができます。ポート OS を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. 下表から設定変更の対象となるポートに適した OS を選択し、該当するファンクションキーを押してください。

ファンクションキー	説明
F1	ポート OS を Windows に設定します。
F2	ポート OS を Mac に設定します。
F3	ポート OS を Sun に設定します。

ファンクションキーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了します。

デフォルト値のリストア

これはアドミニストレーターに限定された機能で、工場出荷時におけるデフォルト値を CS1308/CS1316 にリストアします。(p.45「RESTORE DEFAULT VALUES」参照) デフォルト値をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. **[Num Lock] + [-]**、または、**[Ctrl] + [F12]**のどちらかでホットキーモードを起動してください。
2. **[R]**キーを押してください。
3. **[Enter]**キーを押してください。

[Enter]キーを押すと、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」というメッセージが 3 秒間表示され、ホットキーモードが自動的に終了します。

ホットキー一覧表

<p>[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]</p>	<p>[A] [Enter] または [Q] [Enter]</p>	<p>オートスキャンモードを実行します。</p> <p>オートスキャンモードを実行中に[P]キーを押すかマウスで左クリックをすると、オートスキャンを一時停止します。</p> <p>オートスキャンが一時停止している際に任意のキーを押すか、マウスでもう一度左クリックをすると、オートスキャンを再開します。</p>
	<p>[B]</p>	<p>ビープ音を ON または OFF に切り替えます。</p>
	<p>[Esc] または スペースキー</p>	<p>ホットキーモードを終了します。</p>
	<p>[F1]</p>	<p>ポート OS を Windows に設定します。</p>
	<p>[F2]</p>	<p>ポート OS を Mac に設定します。</p>
	<p>[F3]</p>	<p>ポート OS を Sun に設定します。</p>
	<p>[F5]</p>	<p>現在選択しているポートのキーボードとマウスのリセットを行います。</p>
	<p>[H]</p>	<p>クイックホットキーを[Ctrl] + [F12]または[Num Lock] + [-]に変更します。</p>
	<p>[R] [Enter]</p>	<p>工場出荷時にデフォルト値を CS1308/CS1316 にリストアします。(アドミニストレーター限定機能) (p.45 「RESTORE DEFAULT VALUE」参照)</p>
	<p>[ポートナンバー] [Enter]</p>	<p>指定したポート ID のポートに切り替えます。</p>
	<p>[T]</p>	<p>OSD ホットキーを[Ctrl]キー2度押し、または[Scroll Lock]キー2度押しに変更します。</p>









(表は次のページに続きます)

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[←]	スキップモードを起動し、一つ前のアクセス可能なポートに切り替えます。
	[→]	スキップモードを起動し、一つ後ろのアクセス可能なポートに切り替えます。

第6章 キーボードエミュレーション

Mac キーボード



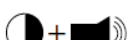




キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボードから Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで入力することによって、PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー([Ctrl]キー)を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

第7章

ファームウェアアップグレードユーティリティ

はじめに

本製品はファームウェアアップグレードを自動的に行うために、ファームウェアアップグレードユーティリティという Windows ベースのツールを提供しております。このツールは、各製品のファームウェアアップグレードパッケージの一部として配布されているものです。

製品のファームウェアは新しいバージョンがリリースされると、弊社 Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。定期的にこのダウンロードサイトにアクセスしていただき、ファームウェアのアップグレードを行うことで、最新の機能をご利用いただけます。

ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード

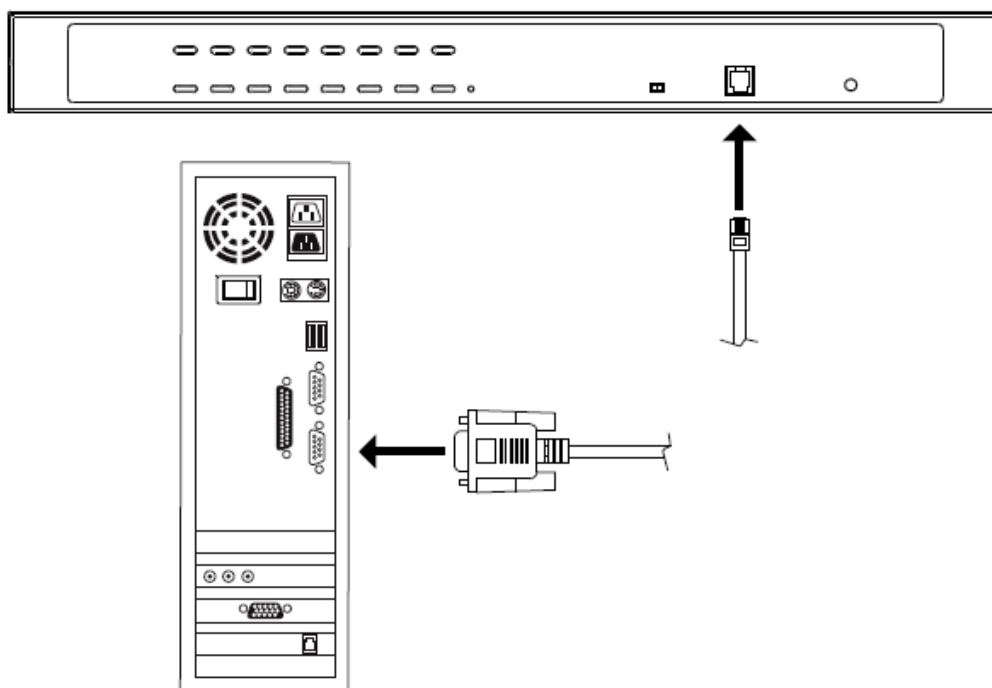
ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードする場合は、以下の手順で作業してください。

1. CS1308/CS1316 に接続されていないコンピューターから弊社ダウンロードサイトにアクセスし、製品型番リストから CS1308/CS1316 を選択してください。利用可能なファームウェアのバージョンが一覧表示されます。
2. 適用対象となるアップグレードパッケージ(通常は最新版)を選択し、そのコンピューターにダウンロードしてください。

アップグレード作業の下準備

ファームウェアアップグレードを開始する前に、以下の手順で準備を行ってください。

1. 製品に同梱されているファームウェアアップグレードケーブルでお使いのコンピューターの COM ポートと製品のファームウェアアップグレードポートを接続してください。

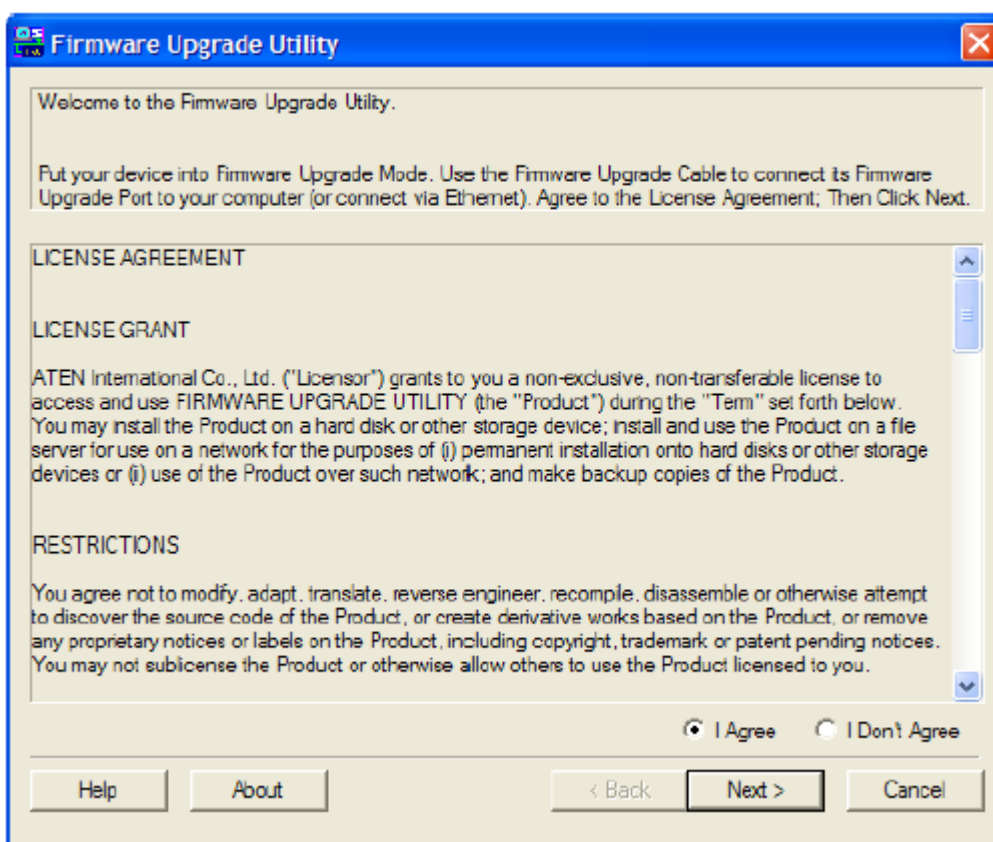


2. 製品に接続されているすべてのコンピューターの電源を切ってください。
3. コンソールから製品の OSD メニューに管理者としてログインし (p.35 参照)、「F4 : ADM」メニューを選択してください。
4. 「FIRMWARE UPGRADE」メニューを選択し、**[Enter]**キーを押してください。その後にファームウェアの更新データをダウンロードの可否を問われますので**[Y]**キーを押して、アップグレードモード (p.46 参照) を開始してください。

アップグレードの開始

ファームウェアのアップグレードを実行する場合は、以下の手順で操作してください。

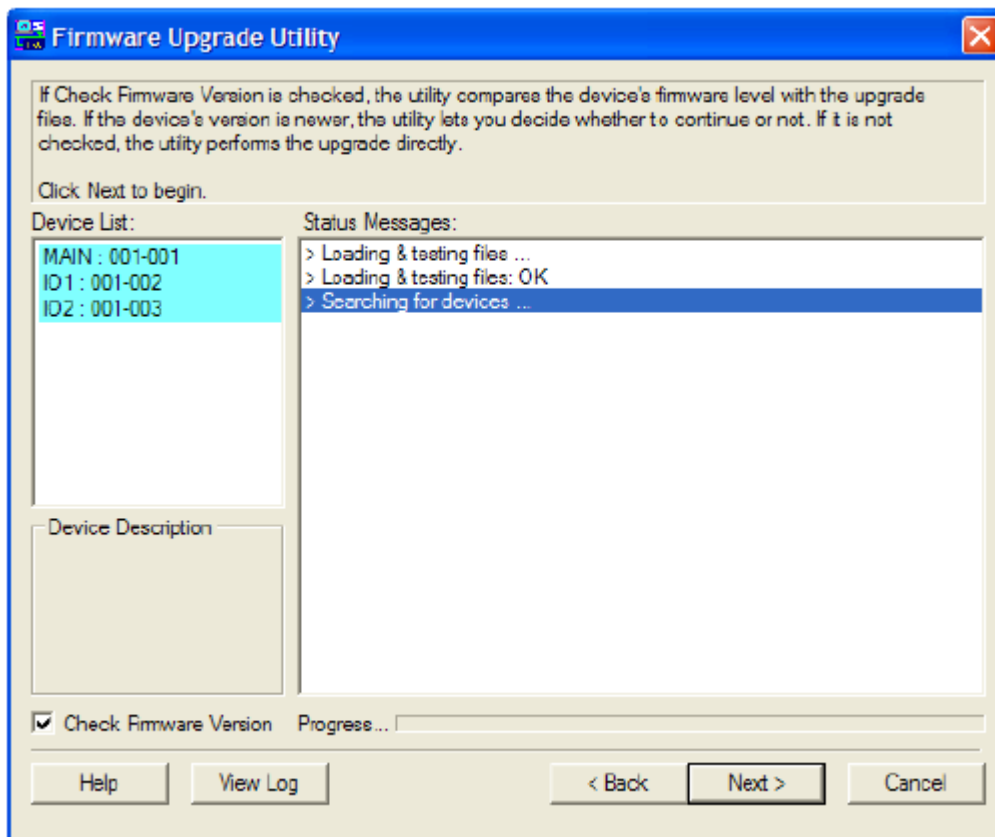
1. 弊社ダウンロードサイトからダウンロードしたパッケージをダブルクリックするか、そのファイルのフルパスをコマンドラインに入力して実行してください。以下のようなファームウェアアップグレードユーティリティの初期画面が表示されます。



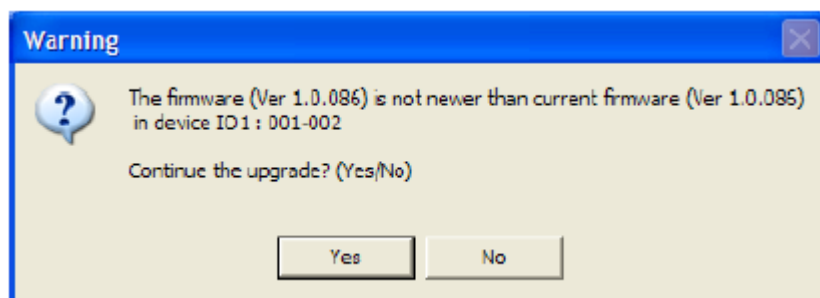
注意: 本セクションで使用されている図は参考例で、実際の画面とは異なる場合があります。ご了承ください。

2. ダイアログ内に表示されている使用許諾契約の内容をご確認いただき、「I Agree」のラジオボタンを選択してその内容に同意してください。

- アップグレード処理を続行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。このボタンを押すと、ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。この画面には、現在のファームウェアアップグレードパッケージでアップグレードが可能なデバイスの一覧が表示されます。



- アップグレードを実行する場合は「Next」ボタンをクリックしてください。「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れると、ユーティリティは現在デバイスにインストールされているファームウェアのバージョンと、これから適用しようとしているファームウェアのバージョンの比較を行います。このとき、デバイスに既にインストールされているバージョンの方が新しい場合、以下のようなダイアログが表示され、アップグレード作業を続けるかどうかの選択を促されます。

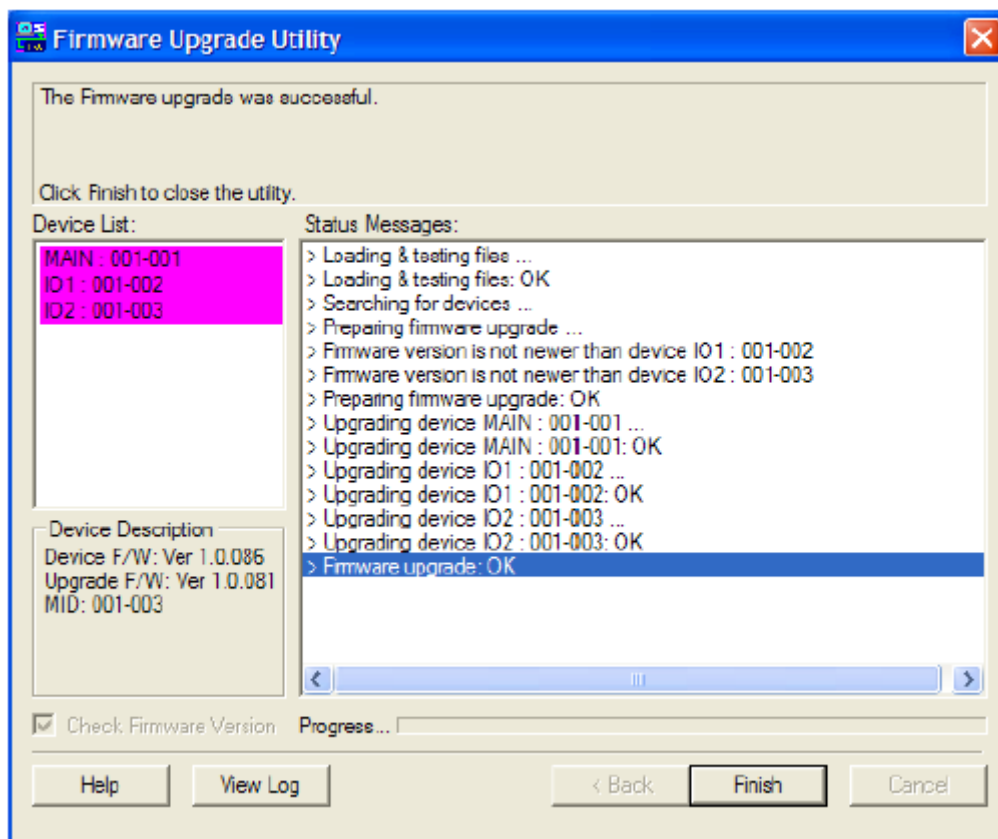


この項目にチェックが入っていないと、ユーティリティはファームウェアの比較を行わずにアップグレード処理を続行します。

なお、アップグレードの進捗状況は、画面に表示されるステータスメッセージとプログレスバーで確認することができます

アップグレード成功

アップグレードに成功すると、以下のような画面が表示されます。



ファームウェアアップグレードユーティリティを終了する場合は「**Finish**」ボタンをクリックしてください。

アップグレード失敗

上図のような画面が表示されなかった場合、アップグレード処理に失敗した可能性があります。この場合は次のセクションの「ファームウェアアップグレードリカバリー」の内容にしたがって復旧作業を行ってください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

以下のような場合、ファームウェアアップグレードのリカバリー作業が必要となります。

- ◆ ファームウェアのアップグレード作業がユーザーによって途中で中止された。
- ◆ マザーボードのファームウェアのアップグレードに失敗した。
- ◆ I/O ファームウェアのアップグレードに失敗した。

ファームウェアアップグレードのリカバリーを行う場合は、以下の手順で作業してください。

1. 製品の電源を切ってください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを、製品のファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. 製品のファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**RECOVER**」の位置にスライドさせてください。
4. 製品に電源を入れなおし、アップグレード作業を最初からやり直してください。
5. ファームウェアアップグレードが成功したら、製品の電源を一旦切り、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**NORMAL**」の位置にスライドさせてください。
6. 製品が他のKVMスイッチとカスケード接続されている場合は、元の位置に接続しなおしてください。
7. 製品に電源を入れなおしてください。

付録

製品仕様

機能		CS1308	CS1316
コンピューター接続数	ダイレクト接続	8	16
	最大(カスケード)	128	256
コンソール接続数		1	
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	PS/2、USB	
	マウス		
ポート選択方法		OSD、ホットキー、プッシュボタン	
コンピューター側コネクタ	キーボード	SPHD メス(イエロー) ×8	SPHD メス(イエロー) ×16
	マウス		
	モニター		
コンソール側コネクタ	キーボード	SPHD メス(イエロー)×1	
	マウス		
	モニター		
スイッチ	ポート選択	プッシュボタン×8	プッシュボタン×16
	ファームウェア アップグレード	スライドスイッチ×1	
ファームウェアアップグレードポート		RJ-11×1	
電源ジャック		DC 電源ジャック×1	
LED	オンライン	オレンジ×8	オレンジ×16
	ポート選択	グリーン×8	グリーン×16
	電源	ダークグリーン×1	
キーボード・マウスエミュレーション		PS/2、USB	
スキャンインターバル		1～255 秒(ユーザー設定)	

(表は次のページに続きます)

機能		CS1308	CS1316
電源仕様(アダプター)		型番:0AD8-0605-24EG 入力:AC100V~240V 50~60Hz 出力:DC5.3V 2.6A	
消費電力		5W	6.6W
VGA 解像度		最大 2,048×1,536 DDC2B 準拠	
動作環境	動作温度	0~50℃	
	保管温度	-20~60℃	
	湿度	0~80%RH、結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量		1.89kg	2.1kg
サイズ(W×D×H)		433×160×44mm	
同梱品		コンソールケーブル×1 ファームウェアアップグレードケーブル×1 電源アダプター×1 フットパッドセット(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1 ラックマウントキット×1	

(表は次のページに続きます)

機能	CS1308	CS1316
対応 KVM ケーブル	《PS/2 KVM ケーブル》 2L-5201P(1.2m) 2L-5202P(1.8m) 2L-5203P(3m) 2L-5206P(6m) 2L-5702P(1.8m) 《USB KVM ケーブル》 2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m) *標準でケーブルは付属していません。	
カスケード対応製品	CS1308 CS1316 CS-1754 CS-1758	
カスケード用ケーブル	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)	
新 SUN システム用ケーブル(D-SUB15 ピン+USB)	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)	
MAC 用ケーブル	2L-5201U(1.2m) 2L-5202U(1.8m) 2L-5203U(3m) 2L-5205U(5m)	

接続台数関連表

下表は、CS1308/CS1316 の台数と、そのときに操作可能なコンピューターの台数との関係を表しています。

CS1308 と 8 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合

スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター
1	8	4	29	7	50
2	15	5	36	8	57
3	22	6	43	9	64

CS1308 と 16 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合

スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター
1	8	4	53	7	98
2	23	5	68	8	113
3	38	6	83	9	128

CS1316 と 8 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合

スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター
1	16	7	58	13	100
2	23	8	65	14	107
3	30	9	72	15	114
4	37	10	79	16	121
5	44	11	86	17	128
6	51	12	93	-	-

CS1316 と 16 ポート KVM スイッチをカスケード接続した場合

スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター	スイッチ台数	コンピューター
1	16	7	106	13	196
2	31	8	121	14	211
3	46	9	136	15	226
4	61	10	151	16	241
5	76	11	166	17	256
6	91	12	181	-	-

対応 KVM スイッチ

下表は、本製品と接続してポート数を増設できる対応 KVM スイッチの一覧です。(これらの KVM スイッチは別途購入いただく必要があります。詳細については販売店までお問い合わせください。)

拡張方法	カテゴリ	型番	名前
カスケード接続	ATEN	CS1308	8 ポート PS/2-USB 対応 KVM スイッチ
		CS1316	16 ポート PS/2-USB 対応 KVM スイッチ
		CS-1754	4 ポート PS/2-USB 対応 KVM スイッチ
		CS-1758	8 ポート PS/2-USB 対応 KVM スイッチ

工場出荷時におけるデフォルト値のリストア

本製品の工場出荷時におけるデフォルト値は、後でリストアすることができます。(項目に関しては次のページを参照) リストアを行うと、アドミニストレーターおよびユーザーのアカウントはすべてシステムから削除され、ポートネームやその他の項目の設定内容もすべて削除されます。

注意: この作業にはジャンパキャップが必要です。作業を開始する前にご用意ください。

1. CS1308/CS1316 から電源アダプターを抜いてください。
2. 製品の外側のケースをはずしてください。
3. マザーボード上にある「J10」または「J17」ジャンパの 1~2 のピンにジャンパキャップをかぶせてください。



4. CS1308/CS1316 に電源アダプターを接続してください。製品に電源が入ると、以下のようなメッセージが表示されます。

```
USERNAME AND PASSWORD INFORMATION AND PORT/USER  
INFORMATION HAS BEEN CLEARED. PLEASE POWER OFF THE  
SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE THE CASE, THEN  
RESTART.
```

5. 電源アダプターをもう一度抜いてください。
6. 「J10」または「J17」ジャンパの 1~2 のピンからジャンパキャップをはずしてください。
7. 手順 2 ではずした外側のケースを製品に取り付けてください。
8. CS1308/CS1316 に電源アダプターを接続してください。
9. この操作で、デフォルトのアドミニストレーターアカウントを使って製品にログインできるようになります。

OSD の工場出荷時における初期設定一覧

CS1308/CS1316 の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3 秒
ポートID表示モード	ポートナンバーおよびポートネーム
スキャン時間	5 秒
スキャン/スキップモード	ALL (アクセスできるすべてのポート)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビーブ音	Y (有効)
アクセス可能ポート	F (全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)

SPHD コネクタについて



本製品は KVM ポート、またはコンソールポートに対して SPHD コネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用の KVM ケーブルのみ製品に接続することが可能です。